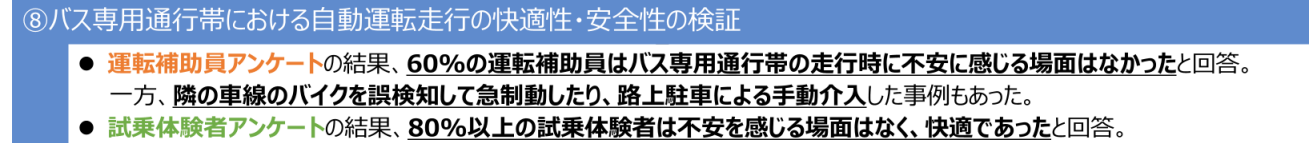


資料(4)(5)(6)概要版



第1 1 回和光市未来技術地域実装協議会 及び 第2 回和光市レベル4 モビリティ・地域コミッティ

協議内容の概要【ダイジェスト】

資料(4)(5)(6)概要版

【議事事項】自動運転サービス導入事業に関する令和7年度以降の事業計画（案）について

自動運転サービス導入事業の概要【全体計画】

●自動運転サービス導入事業の検討経緯

和光市では「**全市民の移動の自由の確保**」を目標として

現状の交通課題
→狭路道路、急勾配、運行本数など

将来まちづくり
→新たな拠点整備 など

全国的な社会課題
→超高齢社会による高齢者の移動手段の確保、
ドライバー不足 など

に対応したモビリティに関する事業として
自動運転車両による市民・就業者及び来訪者への移動サービスの
提供と既存交通網等との連携を軸とした『**和光版MaaS**』の
構想を提案

『自動運転サービス導入事業』の目標

- 超高齢社会、運転士不足の課題に対応するため、令和6年度において、当市も含め全国94の自治体で、99の事業に取組んでおり、自動運転レベル4による社会実装を目指している。
- 当市においては、まずは**S Gリアルティ**と**和光線全区間**（約4.7km）で、**自動運転レベル4**での走行を確立したうえで、将来的には、**市内全域で路線バスや市内循環バスに自動運転サービスを展開し**、利便性が高い公共交通網を作り上げていくことを目指す。

本事業は、3つのフェーズに分けて事業を進める。

フェーズ1 令和2年度～令和6年度

令和6年度末のレベル2自動運転による本格社会実装の実施

- 走行環境の整備
- 第1期・2期社会実証・社会実装

フェーズ2 令和7年度～令和11年度

大型EVバスによる自動運転レベル4（一部）での本格社会実装の実施

- 走行環境の整備
- 大型EVバスの購入
- 大型EVバスによる社会実証・社会実装

フェーズ3 令和12年度以降

市内全域で路線バスや市内循環バスに自動運転サービスを展開

- S Gリアルティと和光線全区間での自動運転レベル4による本格社会実装の実施
- 自動運転走行の市内全域化

自動運転サービス導入事業の概要【フェーズ2】

フェーズ	時期	概要
		● 大型EVの自動運転バスを購入し、S Gリアルティと和光線の全てのダイヤを自動運転バスに置き換える。 ● 自動運転レベル2による社会実証・社会実装を経て、安全かつ効果的に機能するか検証した後に自動運転レベル4による社会実証・社会実装を実施する。 ● 自動運転バスの安全性・公共交通の定時性を確保するためバス専用通行帯の整備（外環側道内回り、新倉北地域センター付近～地藏橋付近までの区間及び新倉氷川神社入口から北側の区間） ● 市民や運行事業者などに対し、自動運転バスへの理解や信頼性を深め、社会受容性を高めていく。
	令和7年度～令和11年度	目標 車両導入 ■ R7年度に大型EVバス車両を購入する。 社会実証・社会実装 ■ まずは大型EVバスによるレベル2での社会実証から始め、レベル2での社会実装、レベル4での社会実証を経て改善を重ねることで、令和11年度の本格社会実装の実現を目指す。 走行環境の整備 ■ 大型EVバスによる本格社会実装に向け、バス専用通行帯の整備を行う。 ● 外環側道内回り、新倉北地域センター付近～地藏橋付近までの区間約260mの整備 ● 新倉氷川神社入口から北側の区間（外環側道外回り）約240mの整備 ● 新倉氷川神社入口から北側の区間（外環側道内回り）約400mの整備



自動運転サービス導入事業の概要【フェーズ1】

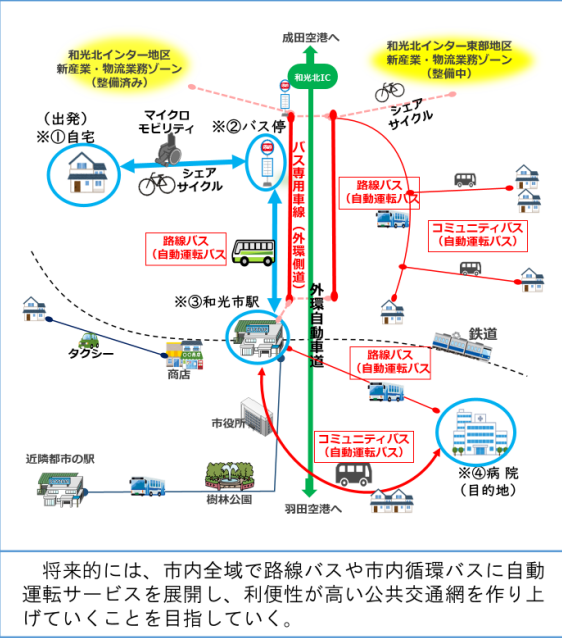
＜2期社会実証運行ルート及び車線整備区間＞



自動運転サービス導入事業の概要【フェーズ3】

フェーズ	時期	概要
		● S Gリアルティと和光線全区間（約4.7km）で、自動運転レベル4による社会実証を経てから、自動運転レベル4による社会実装を実施する。 ● 市内全域で自動運転バスを走行させるための技術的な課題や問題点に対する改善を図る。 ● 市内全域で路線バスや市内循環バスに自動運転サービスを展開し、利便性が高い公共交通網を作り上げていくことを目指す。 ● 自動運転サービスの導入に伴う運転手の省人化により、地域公共交通網の維持された地域社会の形成を目指す。

＜フェーズ3以降のイメージ＞



将来的には、市内全域で路線バスや市内循環バスに自動運転サービスを展開し、利便性が高い公共交通網を作り上げていくことを目指していく。

第1 1 回和光市未来技術地域実装協議会 及び 第2 回和光市レベル4 モビリティ・地域コミッティ

協議内容の概要【ダイジェスト】

資料(4)(5)(6)概要版

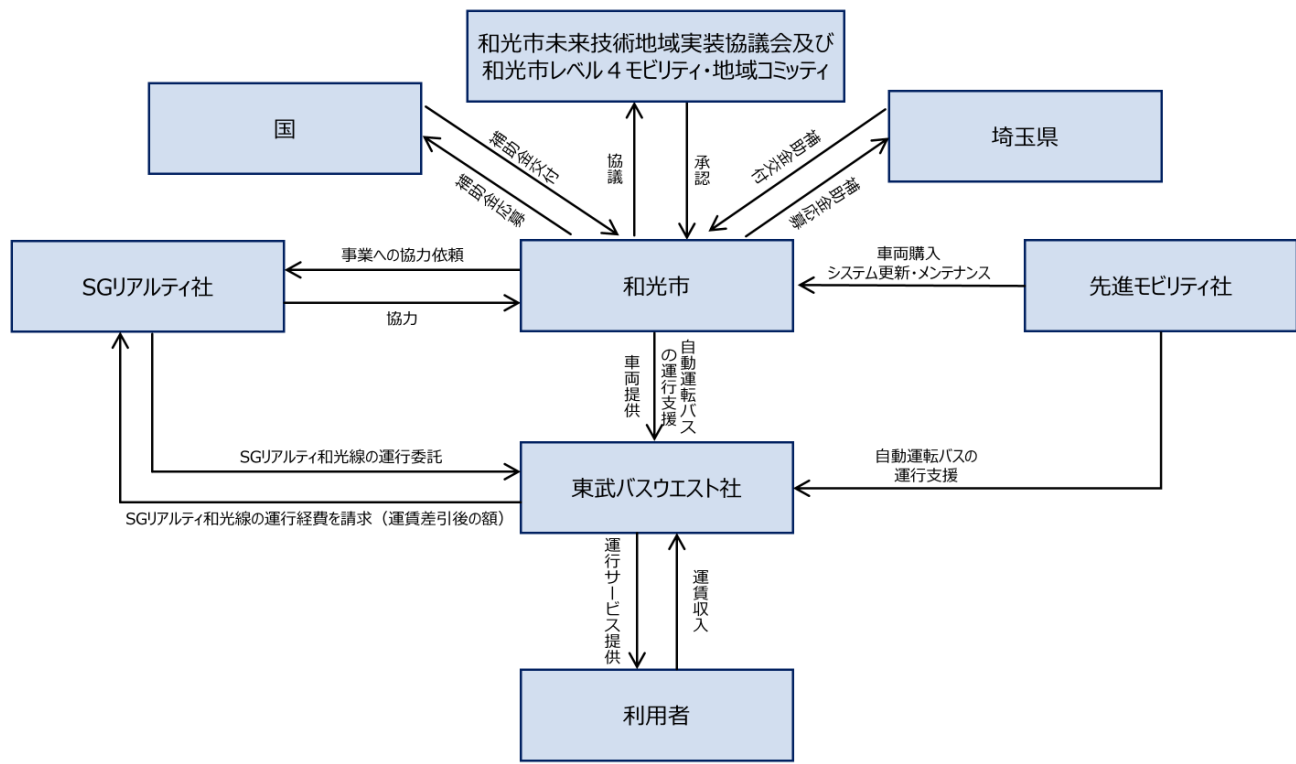
【議事事項】自動運転サービス導入事業に関する令和7 年度以降の事業計画（案）について

【フェーズ2】実施方針

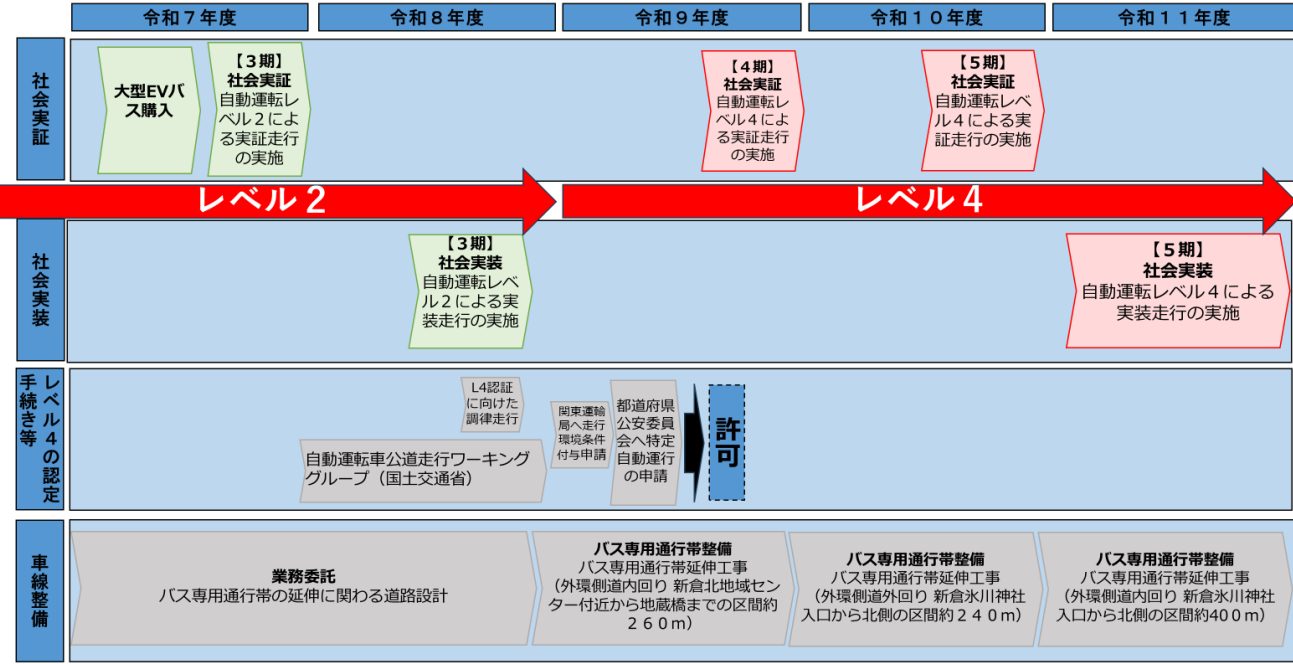
●R7年度以降のフェーズ2 の実施方針を以下に示す。

NO	方針	理由
①	● 自動運転バスを購入する	● 国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業費補助金は、補助額が最大1.5億円のため車両の購入に際して、国費を最大限活用することができる。 ● 購入する場合、約9.68千万円（税込）のイニシャルコストが発生するが、ランニングコストを抑制することが出来る。 ※大阪万博で使用した中古車を購入予定。 ※リース契約の場合、リース料として年間5千万円程度のランニングコストが発生する。
②	● 大型EVの自動運転バスを導入する	● 大型バスを導入することで輸送力が大幅に増加し、路線バスとして使用できる見込みが立つ。 ● EV車の回生ブレーキにより、下り坂等での安定性・快適性が向上し、さらに立ち乗り利用も可能となる。 ● EV車を導入することで地球環境に配慮する。
③	● SGリアルティ和光線の全てのダイヤを自動運転バスに代替する。	● 全てのダイヤを自動運転バスに代替することで、運転士の人数を増やさずに運行できるため、運転士の経費は現行の費用を維持できる。 ● 既存の路線バスを活用するため、市が負担する運行経費を抑制できる。
④	● SGリアルティ和光線ルートの途中に設けた停留所に乗降する運用を図る。	● 沿線住民の利便性を向上させることが出来る。 ● 利用者数が確実に増加するため、運賃収入も増加する。

【フェーズ2】実施体制



【フェーズ2】ロードマップ



【フェーズ2】概算事業費

		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	市が支出する項目の合計
方針	社会実証/社会実装	社会実証	社会実装	社会実証	社会実証	社会実装	
	自動運転レベル	レベル2	レベル2	レベル4（一部）	レベル4（一部）	レベル4（一部）	
支出（税込）	車両関連費	¥99,770,000	¥0	¥830,000	¥830,000	¥0	¥101,430,000
	システム関連費	¥12,980,000	¥66,500,000	¥19,740,000	¥19,740,000	¥12,100,000	¥131,060,000
	労務費	¥17,050,000	¥12,650,000	¥28,850,000	¥28,850,000	¥12,650,000	¥100,050,000
	EV充電設備整備・維持費	¥10,000,000	¥0	¥280,000	¥280,000	¥0	¥10,560,000
	車線整備費	¥2,000,000	¥18,000,000	¥95,000,000	¥69,000,000	¥115,000,000	¥299,000,000
市が支出する項目の合計		¥141,800,000	¥97,150,000	¥144,700,000	¥118,700,000	¥139,750,000	¥642,100,000
収入	補助金①（国土交通省）	¥111,840,000	¥63,320,000	¥91,780,000	¥77,480,000	¥83,050,000	¥427,470,000
	補助金②（埼玉県）	¥10,000,000	¥10,000,000	¥6,590,000	¥6,590,000	¥3,300,000	¥36,480,000
	合計	¥121,840,000	¥73,320,000	¥98,370,000	¥84,070,000	¥86,350,000	¥463,950,000
市負担費用合計		¥19,960,000	¥23,830,000	¥46,330,000	¥34,630,000	¥53,400,000	¥178,150,000